

恒一 牧野

で、駆逐されるべきものと位置付けられており、昭和30年以降の日本の経済発展に従って着実に減少して来た。

木造密集市街地の改造

高齢化、人口減少の時代が到来し、行政による市街地改造の勢いはなくなった。いまや、取り残された木造密集地域の建て替えは極めて困難になり、

活動も難しい。それが古い木造市場で大規模火災が目立つようになった原因ではなからうか。

今となつては根本的な解決は難しそだが、北

る地域では土地区画整理事業などにより、商業などのポテンシャルが高くなり、空き地だらけの市街地に向かって突き進んで事業を始めている。市が朽化、空き家化、取り壊し、空き地だらけの市街地から「木造市場等防火安全対策モデル事業」という

経済発展が直接見込める地域では市街地再開発事業などにより、税金の投入を本来事業である道路整備や公園整備などに限りながら、行政が中心になつて積極的に行われた。また、経済発展が及ぶための道路も狭いた

いる、というのが、全国モデル地区を指定して水道ホース直結型の簡易消火装置の設置と無線連動型住宅用火災警報器の貸与・設置・維持管理を行うとともに、火気使用設備の点検や訓練なども消防が中心になつて積極

明石市大蔵市場火災を考える

適用し、直接税金を投入して改善が進められた。自然に建て変わるのを待つだけでなく、行政による、経済発展の果実を生かしながら様々な制度を特に木造市場は、共通

ク全焼、ということになってしまふ。シャッター街化すると、初期消火のための住民もいなくなる。

高めて防ぐという戦略で、当面の手段としては理にかなっている。

今後、各地で明石市の大蔵市場火災のような火災が起こってくる可能性

駆使して整備が促進され、の屋根がかかっていたりもある。経済発展にあま

て一体性が高いため、個
うやって対処していく
だ。

だが、このような整備別に建て変わっていくか。各地の知恵を持ち寄る。やがて、低成長、高しく、延焼しやすく消防に対応していくしかないのかもしれない。